



コンソート・リアス (Consort Rias)



震災後、被災三県の音楽家で結成されたグループで、合唱とオーケストラが合体した団体。コンソート・リアスには音楽大学や一般大学で声楽や楽器の専門的技術を身につけ、地元や関東で活躍するメンバーが所属している。東北全体で連携して震災後の社会に、音楽の力で貢献する活動を行っている。

2017年8月に石巻市で、地元の音楽グループや子供たちと共演し好評を博した。2018年2月に仙台市にて、レクチャー・コンサート「復興-未来はここから始まった」を企画。2019年5月には、復興祈念「モーツァルトのレクイエム」福島公演に出演した。被災地同士のメンバーがお互いを支援し合い、共働で一つの演奏会を創り上げる活動は、東北全体の文化的復興力を高めている。メンバーが真剣に芸術に挑み活力ある姿を示し、そこで暮らす人々が力強い未来を描けることを願っている。リアスとは東北共有のリアス式海岸の意味。

出演者

【指揮】 四野見 和敏

【合唱】

《ソプラノ》阿久津巴(秋田) 田村美織(秋田) 三浦 悠(宮城) 山倉良子(福島) 吉田牧子(福島)

《アルト》植松智穂(岩手) 高橋和真(山形) 我妻麻衣(宮城)

《テノール》曾部遼平(岩手) 伊藤陽平(岩手) 《バス》遠藤久典(福島) 吉田政弘(福島) 他

【オーケストラ】

《ヴァイオリン》梅津創(宮城) 小塚征良(秋田) 齋藤恭太(福島) 櫻田里保(愛知) 他

《ヴィオラ》大築萌(山形) 若生胡桃(宮城) 《チェロ》佐々木杜洋(宮城)

《コントラバス》斎藤理沙(福島) 《フルート》板垣楓綺(宮城) 佐々木 舞(宮城)

《オーボエ》大淵かえで(宮城) 佐藤貴洋(宮城)

《オルガン》田原さえ 佐々木菜奈世(岩手)

※特別ゲスト

()内は出身地

【指揮】



四野見 和敏 しのみ かずとし

コンソート・リアスの設立者。石巻市出身。東京音楽大学卒業後、オーケストラ指揮をウィーン国立音楽大学指揮科教授カール・エステルライヒャーに師事。1991年ウィーン・マイスタークラスの最優秀者終了コンサートでウィーン・プロアルテ・オーケストラを指揮。好評を博す。その後ハンブルク州立歌劇場合唱団のもとで数多くのオペラ合唱、さらにデトモルトで教会音楽の研鑽を積む。帰国後、オーケストラ指揮者やオペラの副指揮者や合唱指揮者として東京二期会、関西二期会などで数多くのオペラ作品の公演に携わり、成功へと導いている。東京シティ・フィルでは、飯守泰次郎氏のアシスタントを多く務める。現在、「ヴォーカル・コンソート東京」「VCTバロック・オーケストラ」指揮者並び音楽監督。

【オルガン】



田原 さえ ピアニスト

仙台市出身。武蔵野音楽大学・同大学院を経て、'90年ザルツブルグ・モーツァルトウム音楽大学修了、オーストリア政府芸術修士を取得。東京と仙台とでリサイタルを開催(15回)。また、ザルツブルグでのL.ハッセとのデュオ・リサイタルや、ベルリン弦楽四重奏団、P.L.グラーフとの共演など国際的にも活躍し、'08年6月にはプラハ放送交響楽団との協演も行った。公開レッスンなどでの通訳も数多くこなしている。平成14年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。第2~6回仙台国際音楽コンクールではチャレンジャーズライブのコーディネーターをつとめ、仙台を中心に様々な音楽活動を展開している。'10年12月に初のソロCD『それは、懐かしい時の始まり』を、'13年6月には、P. L.グラーフ氏とのライブCD『コンチェルティーノ』をリリース。現在、昭和音楽大学講師。仙台バッハゼミナール代表。MHKS音楽プロデューサー。宮城県芸術協会会員。

団員募集

一緒に演奏活動するオーケストラ団員、合唱団員を募集中です。

お問い合わせ:080-9637-0494(田村)

ご支援のお願い

団員は東北各地や関東圏にまたがっているため、練習や演奏活動にあたり、交通費や宿泊費を自費でまかなっています。自己負担を少しでも軽くしたいという理由から、皆様からの温かいご支援(協賛、ご寄付等)を賜りますよう、お願い申し上げます。

お問い合わせ先(一般社団法人)アートフォーラムNOAN

noan@vctokyo.jp 090-3982-4055